



「これからが

これまでを決める」

慈光照護のもと、門信徒のみなさまには
愈々ご清祥にてお念仏ご相続のことと慶賀
に存じ上げます。コロナ禍も第四波といっ
た様相を呈しており、いまのところデイ
サービスとショートステイで基本は在宅で
介護している母も、もし介護施設で感染者
が出たり、住職が感染（もしくは濃厚接触）
すれば施設に行けなくなりそうです。そうなっ
てしまってからでは遅いので、いよいよ母
を入所させる時期が来たのかと感じており
ます。ワクチンについても情報が入り乱れ
ていますね。何が正しくて何が間違ってい
るのか、じっくりと受け止めて、自分自身
が誤った情報を発信してしまうことがない
ようにしなければなりません。

標題は今現在お寺の掲示板に載せてある
『揭示伝道』の文です。揭示伝道もインター
ネットですごく探せるので、情けない
ことですが住職もネットに頼ってばかりで
す。山ほどある文章の中でも、この文には

魅かれるものがありました。なぜなら『これまで
が、これからを決める』というのが普通じゃない
ですか、私たちも小さい頃から若いときにしっか
り勉強しておかないと将来に苦労するんだよ
……みたいなことを言われ続けていたような気
がします。だから、これまでに縁なことをしてこ
なかつた私は、どうせこれからもつまらない人生
を送るんだ……と考えてしまいます。そうじゃ
ないというのです。『これからが、これまでを決
める』と。仏教は『転迷開悟』、転ぜられていく世
界ですから、今まで当然と思っていたことがそう
でなかつたと気づかされるときに、仏教とご縁が
あつたことを喜べる世界があるのだと思います。

これについてまたネットで調べたところ、島根
県大田市温泉津町の西楽寺というお寺のホーム
ページに、本当にわかりやすく説明してくださっ
てありました。リンクの掲載のみにしようと思
いましたが、ネット環境のないご門徒さまもい
らっしゃいますので、以下に全文掲載させていた
だきます。（西楽寺さまは転載自由とされていま
すが、ご連絡して快諾いただきました。）

「これまでが、これからを決める」のではない。
「これからが、これまでを決める」のだ。

（藤代聡磨）

これは、京都・東本願寺の門前に掲示してあつ
た言葉です。通常は、「これまでが、これからを決
める」と考えます。過去・現在・未来という時間
の流れからもそう思います。実際のところ、「こ
れまで」のことと無関係な「今」も「これから」も

あり得ませんし、「これまで」のことは、決
して変えることも消すこともできません。
だけど「これからが、これまでを決める」の
です。

「これから（の生き方）が、これまで（の
意味）を決める」と言葉を添えると、味わ
いやすくなります。たとえば、石につまづ
いて倒れたとき、「どうして、あんなところ
に石があつたのだろう…」、「あの石がなけ
れば順調だったのに…」と愚痴の夕ネにす
ることがあります。反
対に「あの時、つまづい
たから、足もとに気を
つけるように
なつて、大き
な失敗をしな
くてすんだ」とつ
まづいた石を踏み台にし
てステップアップする
生き方もあります。



つまり、「これからが、これまでを決め
る」とは、失敗したことも、思い通りにい
かなかつたことも、みんな無駄ではなかつ
た、自分には必要なことだったと「これま
で」（過去）に意味を見出し、引き受けてい
くことでしょうか。

変えることも、消すこともできない「こ
れまで」（過去）は、「これから」の生き方次
第で、その意味が大きく変わるわけです。

では、この「これからが、これまでを決める」という言葉を、人生の最後、いのち終わる臨終の場面に当てはめてみたなら、どうでしょう。

つまり、「死んだらどうなるか？」ということ（これから）が、それまで生きてきた自分の全人生（これまで）を決めることになります。すると、いのち終わった後（これから）が、「死んだら、おしまい」、「死ねば、すべて消えてなくなる」という人の人生（これまで）は、全く意味のない、空しいものとなります。なぜなら、どれほど「楽しかった。いろいろなことをやった。アレもした、コレもした」と言ってみても、最後は「消えてなくなる」わけですから。それならば、どうすれば空しく終わることのない人生になるのでしょうか。

私たち浄土真宗の門徒は、このいのちの行方、死んだらどうなるか…ということ。「後生の「大事」という言葉を用いて仏さまの教えをたずねてきました。後生の「大事」を南無阿彌陀仏のこころを通して受け取る人生は「死んだらしまい」ではありません。この世の縁が尽きるままに、仏さまの世界に生まれさせていただくとお聞かせいただきます。

死んだら「おしまい」ではなく、死ぬことのないいのちの「はじまり」なのです。生を奪う死という事実を、そのまま死ぬこと

ない『いのち（無量寿）』を頂くご縁と受け止めます。いのちを終えた後という「これから」が定まる時、「これまで」、つまり、人生そのものに生きる意味が見出されます。山道、坂道いろいろあったけど、あの道を通ったから、ここまで来れたのだ。泣いたことも、笑ったり、もすべて無駄ではなかったと引き受けていける道が開かれてゆくのです。

西薬寺さまの該当ページ↓



「冥福を祈らないでください」

お葬式の後に弔電が読み上げられますが、聞いていると「故人のご冥福をお祈り申し上げます」というものが結構あります。『冥土』を辞書で調べてみると、『死者の霊魂が行く暗黒の世界』とあります。浄土真宗では今生のいのちを終えたのちは阿彌陀如来の浄土に往生（行き生まれる）するとのお示しです。冥土には行きませんので、どうぞ弔電を送られる際には、下の敬弔の欄にもある文章をお使いくださいね。

「本年度の永代経法要について」

昨年よりのコロナ禍で、昨年は七月一日と二日のお速夜（午後二時）にお勤めと短い法話のみで法要を勤めさせていただきました。今年もどうするかまだ悩んで決まっています。本納骨の法要もしばらくお勤めできていない状況です。みなさまのご先祖をご縁としてお勤めさせていただきます。法要なので、なんとかお勤めさせていただきます

きたいと思えますので、何らかの方法でまたご連絡させていただきます。そのときは感染予防対策をしっかりとしてみなさまをお迎えしたいと思えます。

「お知らせいろいろ」

■敬弔

生前のご功勞を偲び心より哀悼の意を表します。

令和三年四月五日

釋歌陵 新田歌子様（丸岡）

■護持会費のお願い

ご門徒のみなさまには、今年度の護持会費の納入のお願いの文書が同封されております。住職が怠惰なため、たいへん遅くなりましたが、今年度もご協力をよろしくお願い申し上げます。

住職携帯 090-8967-7902
メール soichiro4989@gmail.com
ブログ 西光寺で最高時！



ご縁を慶び、お念仏とともに

親鸞聖人御誕生

